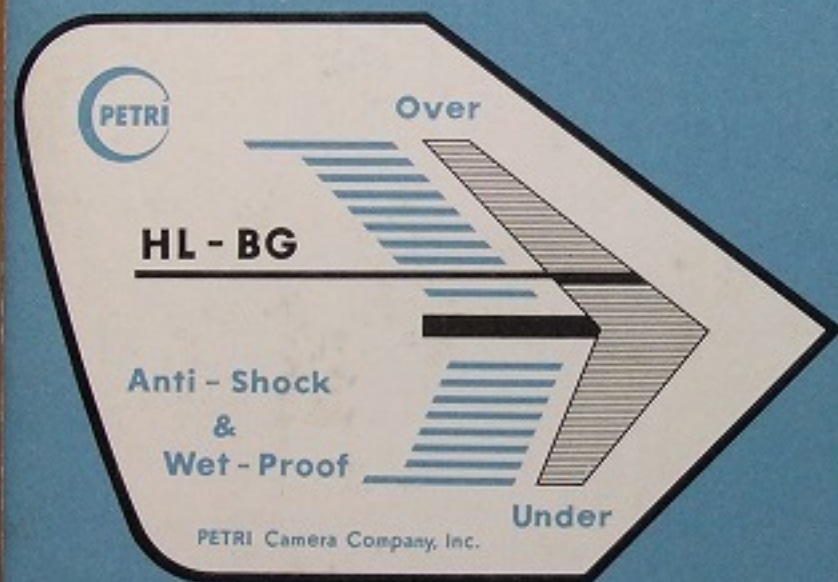


LEADER IN THE COLOR PHOTO AGE



INSTRUCTION BOOK

HL-BG LINE **PETRI[®] PRO7** セブン

主な性能

タイプ	レンズシャッター式電気露出計連動35ミリカメラ
使用フィルム	パトローネ入り35ミリフィルム (20 EX・36 EX)
レンズ	ベトリ F1.8 45ミリ 4群6枚 アンバーコーティング 絞り目盛 1.8 2.8 4 5.6 8 11 16
シャッター	MVEシャッター B・1・2・4・8・15・30・60・125・250・500 倍数系列 セルフタイマー付 MX接点切替式フルシンクロ内蔵 JIS・B ボデーリリースはボデー前面の押しやすい大型斜めボタン ボデー上部にケーブルリリース用孔
連動露出計	サークルアイ式完全連動露出計 ボデー上部指針により調節 HL-BG標示付 定点式 ASA目盛 10~400 連動範囲ASA 100のときLV 7~17
ファインダー	採光窓式ブライトフレーム 視差補正標付 0.65倍
焦点調節	一眼二重像合致式距離計連動 直進ヘリコイド式 連動範囲∞~0.8メートル
フィルム巻上	ボデー背部のレバーによる1作動巻上 (120°) 自動復元順算式フィルム枚数計 巻戻しクランク式 裏蓋開閉式
寸法・重さ	136 × 82.5 × 73 (横×高×奥行) 650 g





目次

- 主な性能……………2
- 各部の名称……………4
- フィルムの入れ方……………6
- 連動露出計の使い方……………9
- HL-BGラインとは……………12
- ピントの合わせ方……………14
- ファインダーののぞき方……………14
- 構え方……………15
- シンクロフラッシュ撮影……………16
- セルフタイマーの使い方……………17
- 被写界深度の利用……………18
- フィルムの出し方……………20
- アクセサリー……………22

ペトリプロセブンをお買上げくださいまして有難うございました。

本機は完全連動式露出計にHL-BGライン(ハイライト・バック・グラウンド標示)を取付け、従来EEカメラの弱点とされていたコントラストの強い被写体に対する露出測定を容易にし、更にフロントシャッターボタン方式によって、カメラぶれを完全に防ぐ工夫を施した、画期的なF 1.8大口径の35ミリカメラでございます。

この使用書をよくお読みになって、正しくお使いいただきますようお願い申し上げます。



各部の名称





- ①自動復元式フィルム枚数計（順算式）
- ②ケーブルリリース取付け孔
- ③HL-BGライン付露出計指示窓
- ④アクセサリースュー（発光器取付台坐）
- ⑤ファインダー窓
- ⑥フィルム巻戻しクランク
- ⑦吊環
- ⑧大型フロントシャッターボタン
- ⑨サークルアイ露出計受光部
- ⑩ベトリF 1.8 45ミリレンズ
- ⑪フォーカシングレバー
- ⑫フィルム感度表示窓
- ⑬シャッター速度リング
- ⑭MX接点切替レバー
- ⑮シンクローターミナル
- ⑯絞り目盛
- ⑰絞り調節リング
- ⑱距離目盛（メーター・フィート）

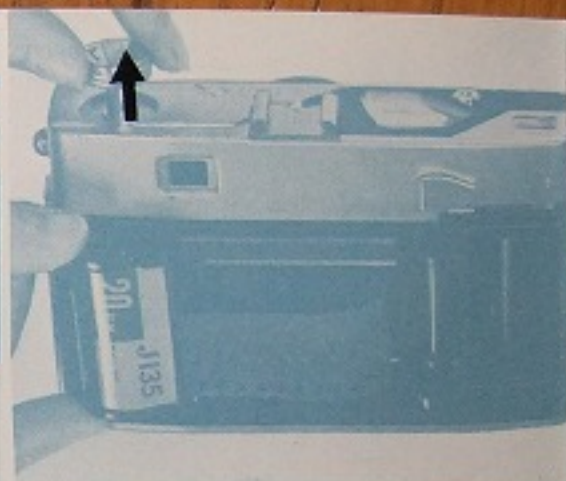
フィルムの 入れ方

- フィルムはパトローネ入り（日中装てん用）の35ミリフィルムを 사용합니다。
- フィルムを入れるときは直射日光をさけ、日陰をえらんで行ってください。



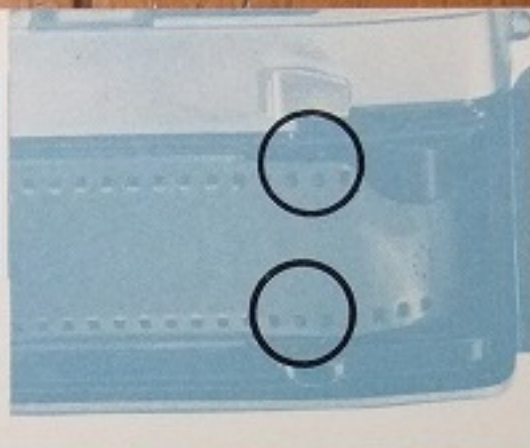
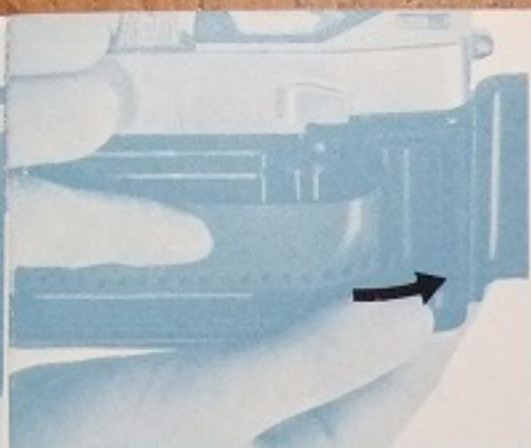
1. 裏蓋をあける

カメラ側面の裏蓋開閉レバーに爪をかけて引くと、裏蓋がスプリングの力で開きます。



2. 巻戻しクランクを引き出す

巻戻しクランクをつまんで、止まるまで引き出します。これでパトローネボックスにフィルムをおさめることができます。



出す

3. フィルムの先端をスプールの溝にさしこむ

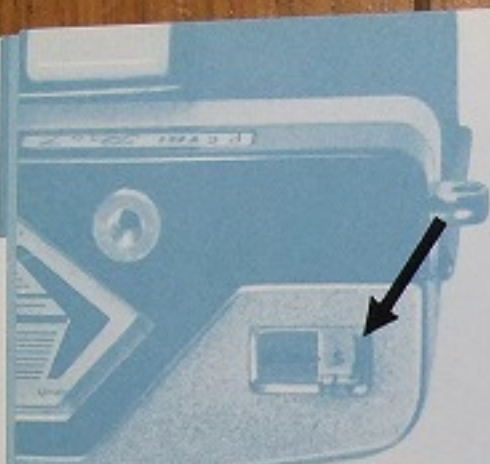
フィルムの先端をスプールの溝にさしこみ、パーフォレーション（フィルムの爪孔）を溝の凸起にひっかけたら、スプールのつばに指をかけて少し巻いてみます。

4. パーフォレーションを確認する

パーフォレーションをスプロケットの歯に完全にかみ合わせてください。これが不完全だと正しく巻上げられません。

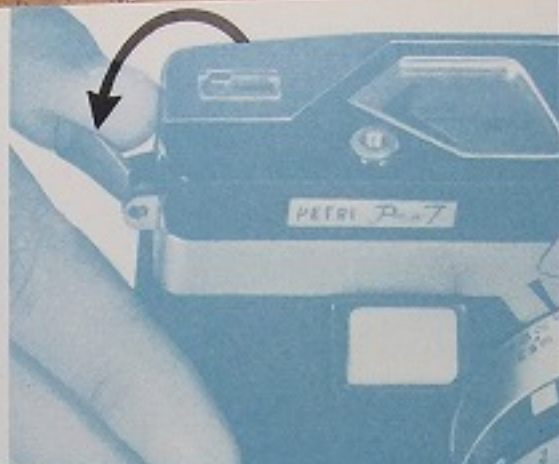
5. 裏蓋を閉める

巻戻しクランクを元に戻し、フィルムが正しく装てんされたか十分に確認した上で裏蓋を閉めます。裏蓋はとじて押せばバチンと自動的に閉まります。



6. フィルム枚数計には手をふれる必要がない

フィルムの撮影枚数を知るための枚数計は、自動的にS印(-3)の位置に合っていますから、No. 1に合うまでフィルムを巻上げなければなりません。

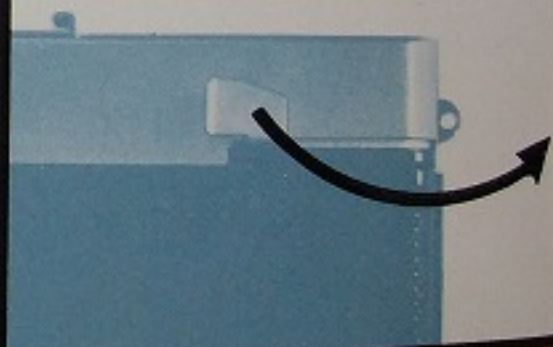


7. 空写しを2回行う

フィルム巻上げレバーを巻いてシャッターを切る操作を2回くり返し撮影直前に3回目の巻上げをします。あとはシャッターを切るだけで第1枚目の撮影ができます。

フィルムの巻上げ

ボデー背部のレバーに親指をかけて、止まるまで(120°)巻くと、フィルムが1コマ分巻上げられ、シャッターがセットされます。レバーは指を離すと元に戻ります。

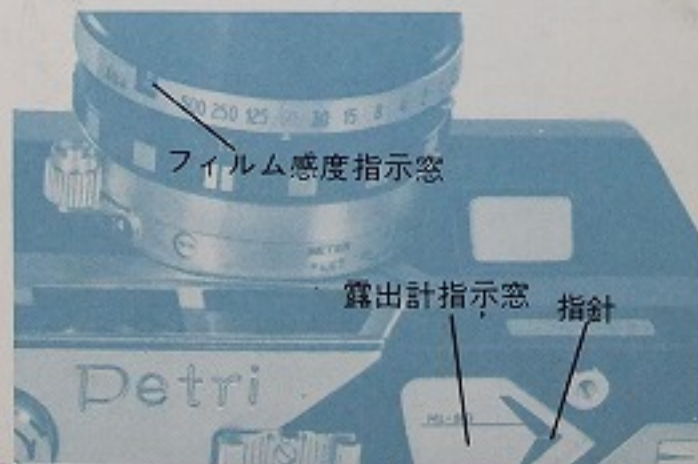


連動露出計の使い方

高性能光電池を用いたサークルアイ機構の
反射光式電気露出計は、

- ①フィルム感度 (ASA・DIN)
- ②シャッター速度
- ③絞り

の三要素に完全連動する定点式です。



その性能は次の通りです。

露光指数系列

ASA 10、・(16)、25、・(32)、50、・(64)、
100、・(160)、200、400

DIN ・(11)、12、・(13)、・(14)、15、・(16)、
・(17)、18、・(19)、・(20)、21、・(22)、
・(23)、24、・(25)、・(26)、27

連動範囲 ASA 100 のフィルム使用のとき
LV (ライトバリュー) 7 ~ LV 17

以上によって、低感度から超高感度まで、
あらゆるフィルムに適應し、ASA 100 のフ
ィルムを使用するときは、LV 7、つまり F
1.8・ $\frac{1}{500}$ 秒が適正な極端に暗いものから、L
V 17、つまり F 16・ $\frac{1}{500}$ 秒が適正な極端に明る
いものまですべて露出計が連動して働くこと
を意味します。

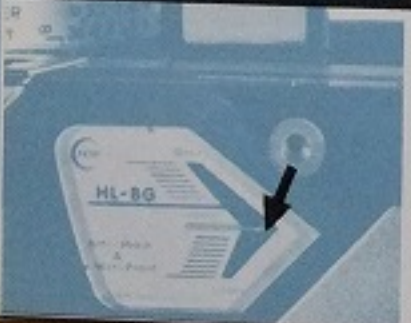
フィルム感度表示レバー



1. フィルム感度表示レバー(矢印)に爪をかけて動かし、使用フィルムのASA露光指数(例えばSSなら100)をフィルム感度表示窓に出しておきます。これはフィルムを入れたとき合わせておきましょう。



2. 被写体の明るさに応じて、例えば晴天の戸外なら $\frac{1}{250}$ 秒、明るい室内なら $\frac{1}{60}$ 秒というように、明るいときは速いシャッター、暗いときは遅いシャッターを適当にえらび、シャッター速度リングを回して希望の速度にセットします。



3. 胸の位置で被写体にカメラを向けて絞りリングを回し、ボデー上部の指針を指標に合わせます。これでもう適正絞りにセットされています。

準備

撮影にかかる前に

被写体に対したら

露出計操作上のご注意

- 暗い所で高速シャッターを使ったり、明るい所で低速シャッターを使うと、絞りだけでは調節し切れないことがあります。このときはシャッター速度を変えて測り直します。
- 極端に暗くて長時間露光が必要なときには、普通のカメラとして、絞りとシャッター速度をセットします。
- 極端に明るくて露出計が連動範囲外となるときは、濃い目のフィルターをご使用ください。
- 絞りから先に露出をきめたいときは18ページの「被写界深度の利用」を参照のこと。

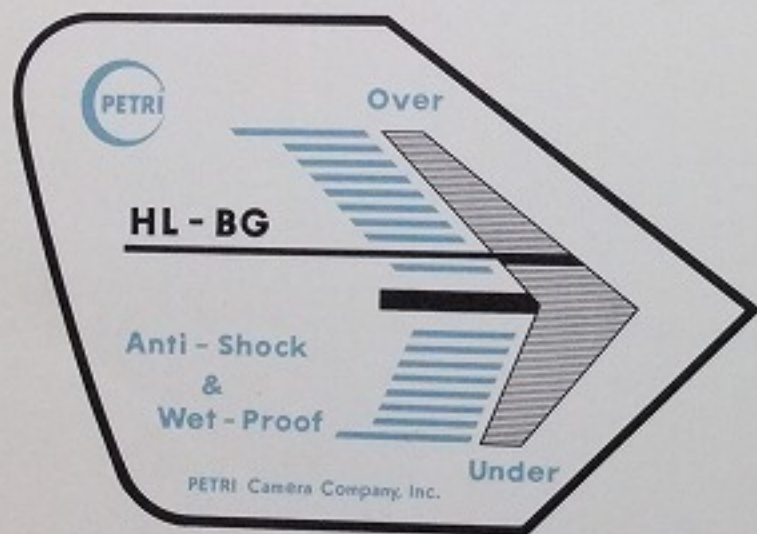
露出計連動範囲一覧表 (ASA100のとき)

F No / Lv	1.8	2.8	4	5.6	8	11	16
7	$\frac{1}{50}$	$\frac{1}{45}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{2}$	1	
8	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{50}$	$\frac{1}{5}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{2}$	1
9	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{6}$	$\frac{1}{5}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{2}$
10	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{6}$	$\frac{1}{5}$	$\frac{1}{5}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{4}$
11	$\frac{1}{500}$	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{25}$	$\frac{1}{6}$	$\frac{1}{5}$	$\frac{1}{5}$	$\frac{1}{8}$
12		$\frac{1}{500}$	$\frac{1}{20}$	$\frac{1}{25}$	$\frac{1}{6}$	$\frac{1}{6}$	$\frac{1}{5}$
13			$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{50}$	$\frac{1}{25}$	$\frac{1}{6}$	$\frac{1}{5}$
14				$\frac{1}{50}$	$\frac{1}{20}$	$\frac{1}{25}$	$\frac{1}{6}$
15					$\frac{1}{50}$	$\frac{1}{50}$	$\frac{1}{25}$
16						$\frac{1}{50}$	$\frac{1}{50}$
17							$\frac{1}{50}$

サークルアイ機構とフィルターの露出倍数

ベトリプロセブンの露出計受光部はサークルアイ式になっていて、フィルターが受光部ごとにかかりますから、露出倍数についてはなんら考慮することなく、フィルターなしの場合と全く同じ操作で適正露出が得られます。

HL-BG ラインとは……………



ペトリプロセブンの上部指針には、指標の他にHL -BG（ハイライト・バック・グラウンド）の黒線が入っております。

これは従来の露出計が、バックの極端に明るい被写体を撮影する際、バックからの光のためにとかく被写体に対して露出不足になり勝ちな傾向がある点を修正するために取付けられた標示で、特に寛容度の狭いカラー撮影時には、大きな効果を示します。

次のような場合は、指針をHL -BG

ラインに合わせてください。

- ①空や反射の強い道路などをバックにした人物撮影。
- ②雪景や海岸、山頂などの人物撮影。
- ③窓際の人物撮影。
- ④逆光撮影で影の部分を描写したいとき。(直射光が当らぬ状態で測る。)

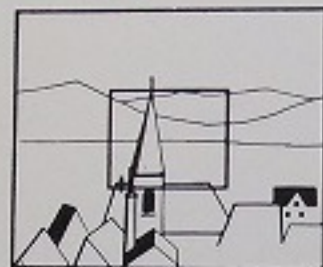
なおHL-BGラインを用いれば、いつでも撮影位置から普通に測定すればよく、いちいち被写体に近づいて測ったり、測定の結果を更に調節し直すような面倒は一切ありません。



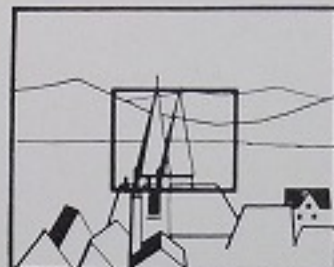
HL・BGライン使用



普通の指標を使用



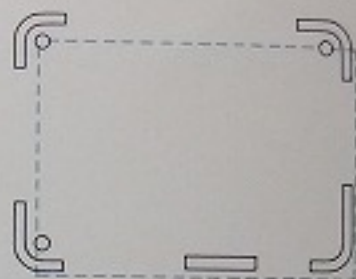
ピントが合っているとき



ピントがはずれているとき

ピントの合わせ方

露出を合わせたら、次はピントの調節です。ファインダーをのぞきながら、フォーカシングレバーを動かしますと、視野の中央に見える二重になった像の一方が動きます。この二重像を完全に合致させると、ピントが合います。



ファインダーののぞき方

ファインダー視野内に明るく見える枠、これが実際に写る範囲を示すブライトフレームです。この枠内で構図をきめてください。

ただし、至近距離ではフレームの内側に見える点の位置まで実画面がズレますから、上図の点線の範囲を標準にねらわなくてはなりません。これはバララックス（視差）といってファインダーとレンズの位置がちがうために近距離の場合だけ生じる現象です。



横位置



縦位置

構え方

露出をきめ、ピントを合わせ、ブライトフレームで構図をきめたら、いよいよシャッターを切るわけですが、この瞬間にカメラが動いては、折角の写真がブレてしまって、なんにもなりません。

- カメラは両手でしっかり持ち、カメラの背部を鼻、ヒタイなど顔の一部にぴったり密着させると、カメラが安定します。
- シャッターボタンは指先きでなく、人差指の腹で、全体をにぎるように静かに押し下げます。
- 連続撮影を行う場合は構えた姿勢のまま巻上げレバーを操作します。
- 左の写真を参考に、横位置、縦位置の構え方について十分習熟してください。



シンクロフラッシュ撮影



暗い被写体を明るくシャープに、速いシャッターで写し止めるには、閃光電球の発光とシャッターの開口を同調させて、シンクロフラッシュ撮影するのが一番簡単でよい結果を得られます。

●用意するものはフラッシュガン（発光器）と閃光電球です。フラッシュガンのコードの先端のソケットをシンクロターミナルに接続し、ガンに閃光電球を取付けてシャッターを切れば、閃光電球が同調発光します。フラッシュガンは小型のものをアクセサリシューに取付けて行くと便利です。

●閃光電球はM級またはF級という種類をいます。M級の場合はMX接点切替レバーをM側に、F級の場合およびストロボを使う場合はX側に合わせます。

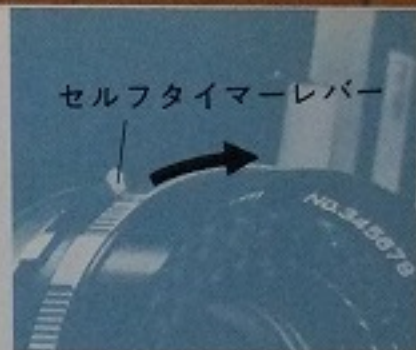
●もちろん露出計は使えません。シャッター



速度は下の同調表によってきめ、絞りは閃光電球の光量と光源・被写体間の距離によってきまります。普通の人物撮影などでは、あまり大型の電球の必要はありません。全速度に同調する小型のM級の電球が使いやすいでしょう。

フラッシュ同調表

接点		M 接点	X 接点
閃光電球			
M 級		全速度同調	1/60秒まで同調
F 級		—————	1/60秒まで同調
ストロボ		—————	全速度同調



セルフタイマーの使い方

セルフタイマーレバーを止まるところまで引いてセットし、シャッターボタンを押せば約8秒後にシャッターが切れます。使用の際は三脚を使ってください

- セットはフィルムを巻上げる前でも後でも構いません。B（バルブ）以外の各速度に使えます。
- シンクロ撮影でセルフタイマーを使うときは、シンクロMX接点切替レバーを必ずX接点に合わせた上で撮影してください。

被写界深度の利用

ある1点にピントを合わせたとき、その後方に実用上シャープに写る範囲があります。これが被写界深度です。

被写界深度は①絞りを小さく絞るほど、②同じ絞りでも撮影距離が遠くなるほど、深くなる性質があります。また、前より後ろの方が一層広範囲にシャープになる性質をもっています。

この性質を利用して次のように作画効果をあげることができます。

- 集合人物など奥行きが深い被写体を全部鮮明に写すために小絞りをを用いる。
- 人物撮影でわざとバックをぼかして画面を整理するために大絞りをを用いる。

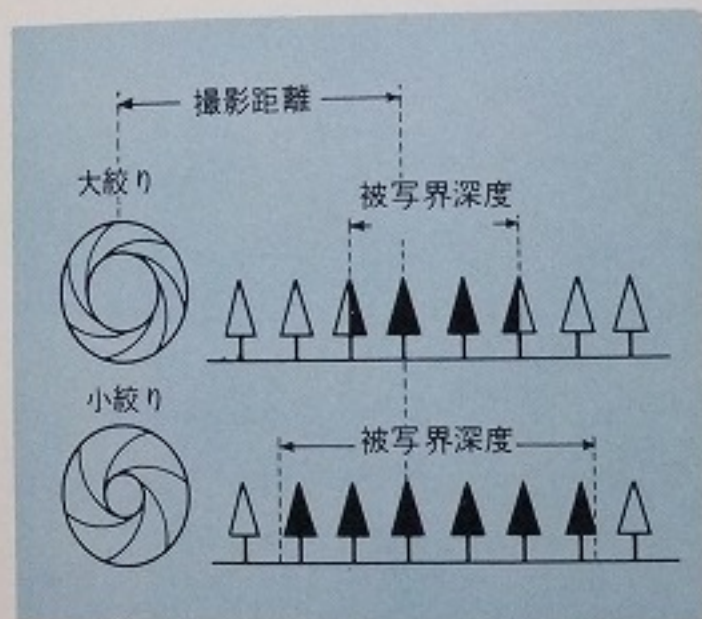
各絞り、各距離において、鮮明に写る範囲を数字で示したのが次ページの被写界深度表です。作画上の効果と結びつけて利用してください。

- 被写界深度を考えて露出をきめるときは、まず絞りをきめ、これに応じたシャッター速度をえらぶこととなります。そこで前掲の連動露出計の使い方も、①まず希望の絞りをセットし、②シャッター速度リングを回しながら指針を合わせる、こととなります。ただしシャッター速度は目盛の中間が使えないので、一たん指針を合わせたら一番近い速度目盛(クリック位置)に合わせ直し、その分だけ絞り目盛を微調整しなければなりません。



ペトリプロセブン用 ペトリ F1.8 45mm
被写界深度表

(メートル)

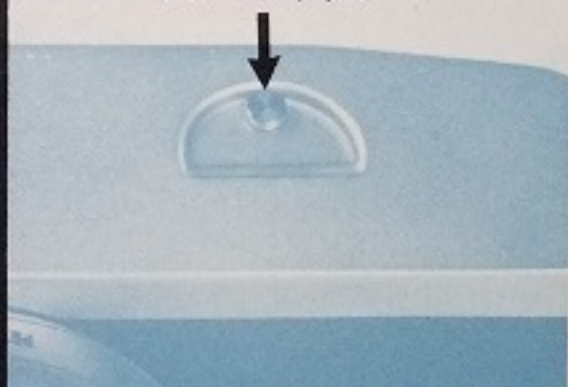


出射 FNo.	1.8	2.8	4	5.6	8	11	16
0.8	0.78 0.82	0.77 0.83	0.76 0.84	0.75 0.86	0.73 0.89	0.70 0.93	0.66 1.01
0.9	0.88 0.92	0.87 0.94	0.85 0.96	0.83 0.98	0.81 1.02	0.78 1.07	0.73 1.17
1	0.97 1.03	0.96 1.05	0.94 1.07	0.92 1.10	0.89 1.15	0.85 1.22	0.80 1.35
1.2	1.16 1.24	1.14 1.27	1.11 1.30	1.08 1.35	1.04 1.42	0.99 1.53	0.91 1.75
1.5	1.44 1.57	1.40 1.61	1.37 1.66	1.32 1.74	1.25 1.87	1.18 2.06	1.08 2.48
2	1.89 2.13	1.83 2.20	1.77 2.31	1.69 2.46	1.58 2.72	1.47 3.15	1.31 4.25
3	2.75 3.29	2.63 3.48	2.50 3.75	2.34 4.16	2.14 5.00	1.93 6.67	1.67 15.04
5	4.34 5.89	4.05 6.54	3.74 7.52	3.40 9.43	2.99 15.19	2.60 64.52	2.13 ∞
10	7.68 14.35	6.79 18.94	5.97 30.68	5.14 ∞	4.26 ∞	3.50 ∞	2.71 ∞
∞	32.79 ∞	21.10 ∞	14.77 ∞	10.55 ∞	7.38 ∞	5.37 ∞	3.69 ∞

フィルムの 出し方

20枚または36枚の撮影を終ったフィルムはカメラから取り出さなければなりません、そのままカメラを開けるとフィルムに光が当たって駄目にしてしまいます。

リターンボタン



1. リターンボタンを押す

フィルムを全部撮影し終わったらもとのパトローネに巻き戻さなければなりません。まず、カメラ底部にあるリターンボタンを押します。



2. 巻戻しクランクを起して回す

リターンボタンを押したまま、巻戻しクランクを起して矢印の方向に回します。これでフィルムがパトローネの中に巻き戻されてゆきます。

3. フィルムを取出す

巻戻しの手ごたえが急に軽くなったら、完全に巻戻されたと判断されますから、裏蓋を開き、巻戻しクランクを引き出して、フィルムを取り出します。

フィルム巻戻し上のご注意

- フィルムが完全にパトローネに巻戻されたかどうか不安なときは、フィルム巻上げレバーを操作してみます。巻戻しクランクが矢印と逆方向に回らなければ巻戻されているはずですよ。
- 巻戻しの際フィルムの先端までパトローネに巻きこんでしまうと、空のパトローネと間違ふおそれがあります。できればフィルムの先端を出しておいて、撮影終了のマークをつけておけば安全ですよ。
- 写し終ったフィルムは、なるべく早目に現像に出しましょう。そのまま放置したり、写しかけで長期間カメラの中に入れておくと、カブリを生じたり、いろいろな故障の原因となります。



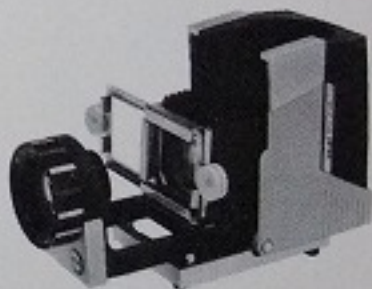
アクセサリ



ペトリフード

丸型、止ネジ式の専用レンズフードは、内面反射が完全に防止され、あらゆる有害な乱反射を防ぎます。特に海岸、雪景、逆光の撮影には常備したいアクセサリです。止ネジですから落すおそれがありません。美しい皮ケースに収められています。かぶせ式・57ミリ。¥1,000

ペトリプロセブンには、ペトリフード、各種ペトリフィルターなどの専用アクセサリが用意されています。あなたの撮影をより楽しいものにするためにお備えください。



ペトリスポットスライド

携帯に便利な超小型スライド映写機です。ペトリプロセブンで撮影したカラーフィルムを、大きく映写して楽しむには、シャープで明るい本機が最適です。¥5,900



ベトリフィルター

ネジ込式金属枠付のベトリフィルターは、吸収が完全ですから、整色用、強調用として作画上大きな効果をもたらします。また、カラー用の各種フィルターも用意されています。ネジ径55ミリ。

UV・紫外線カット用。カラー撮影にも使え

ます。¥ 1,400

Y 1・淡黄色で戸外人物を自然な感じに写します。¥ 1,200

Y 2・黄色で青空の調子を適度に落とし、風景を自然に写します。¥ 1,200

YA3・遠景のコントラストをつけるなど、強調用として使われる橙色フィルターです。¥ 1,200

R 1・赤色で赤外撮影や航空写真など、強調用として使われます。¥ 1,200

PO1・緑色系で女性のヒップなどを美しく描写します。¥ 1,200

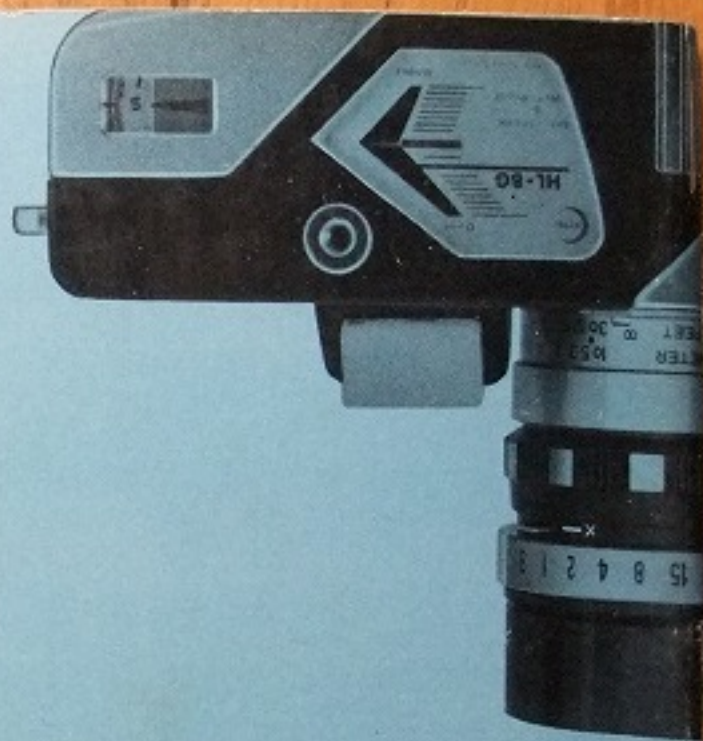
カラー用（昼光フィルム用）

W 4・温調（曇り日用） **C 4**・冷調（朝夕用） **C 8**（フラッシュ用） **C 12**（写真電球用）各 ¥ 1,400

カラー時代をリードする 〈ハイライン〉 HL-BG LINE

いよいよカラー時代——万能といわれるEEカメラも、海や山、スキー場、あるいは窓辺などの撮影では、露出が背景の明るさに合ってしまうと、かんじんの被写体が黒くなってしまいます。カラー写真では、色彩効果がよりいっそう損われます。これらの欠点を解決したのがハイライン(HL-BG)機構です。

EEからハイラインへ——カメラも大きく進歩しました。カラー時代を迎えた日本のカメラ界に、トップを切ってハイライン(HL-BG)機構をとり入れたカメラ、それがベトリ・プロ7です。



ペトリカメラ株式会社

本社・工場	東京都足立区梅島町 1
東京センター	東京都千代田区九段 2 - 5
大阪センター	大阪市南区豊谷西之町 11 - 4
名古屋センター	名古屋市中区鶴重町 1 - 5
九州センター	福岡市片上居町 13 - 2
北海道センター	札幌市南七条西 10 丁目